第61回北九州市環境影響評価審査会

(議題:「(仮称)新小倉発電所6号機建設計画に係る環境影響評価準備書」の審査)

日時:令和7年7月28日(月) 14時~16時

(事務局)

ただいまから第61回北九州市環境影響評価審査会を開会いたします。

私は本日の司会進行役を務めます、環境監視課の小畑と申します。

よろしくお願ひいたします。本日の審査会には16名の委員定数に対しまして、今のところ11名の委員の方が出席されております。2名の委員が遅れておりますが後ほど参加されます。北九州市環境影響評価審査会規則第7条第1項に定める定足数である過半数9名の出席を満たしていることを報告いたします。

本日は環境影響評価法対象事業であります、「(仮称)新小倉発電所6号機建設計画に係る環境影響評価準備書」についてご審査いただきます。本日の審査会はWeb会議による開催とさせていただきます。カメラ・マイクにつきましては、通常はオフにさせていただきます。ご発言の際は挙手ボタンのクリックをお願いいたします。会長からのご指名がありましたら、カメラ・マイクをオンにした後、ご発言いただきますようお願いいたします。ご発言後は挙手ボタン及びカメラ・マイクを再びオフにさせていただきますようお願いいたします。会議中、音声が聞き取りにくい等不具合がございましたら、事務局まで電話あるいはWeb会議のチャット機能でお知らせいただきますようお願いいたします。本日の会議は、議事録作成のため、録画録音いたします。あらかじめご了承ください。

本日、ウェブでの傍聴者の方が7名いらっしゃいます。傍聴参加の方につきましては、カメラ、マイクを常にオフの状態にさせていただきますようお願いいたします。また、会議の録画、録音はご遠慮ください。

続きまして、委員の皆様にも事前にお送りしました資料の確認をさせていただきます。次第、委員名簿、諮問書、審査案件に関する資料としまして、「(仮称)新小倉発電所6号機建設計画に係る環境影響評価準備書」関連資料となっております。また、環境影響評価準備書は図書の縦覧に合わせ、別途お送りしております。資料はお手元にありますでしょうか。

それでは開会にあたりまして、環境監視課長の松岡よりご挨拶申し上げます。

(事務局)

皆さんこんにちは。北九州市環境局環境監視課長の松岡でございます。

本日はご多用のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の審査の対象事業は令和5年8月にアセス手続きを開始しました、九州電力株式会社新小倉発電所における火力発電所リプレース事業でございます。本事業は昨年6月に開催しました第57回審査会で、第13期の委員の皆様にも方法書についてご審査いただいております。大気環境、動物、

温排水、景観、廃棄物、温室効果ガスといった事項について市長意見を提出してございます。本日は、環境影響評価法に基づき、事業者から送付された環境影響評価準備書につきまして、準備書における検討事項である、「調査、予測及び評価の結果」、「環境の保全のための措置」並びに「対象事業に係る環境影響の総合的な評価」などについてご審査をお願いいたします。委員の皆様におかれましては、専門的な見地から、技術的事項について公正・的確なご意見、ご助言を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは、以降の議事進行につきましては、楠田会長にお願いしたいと思っております。楠田会長、よろしくお願いいたします。

(楠田会長)

こんにちは。楠田でございます。よろしくお願いいたします。本日は非常に暑いところご参加いただきまして本当にありがとうございます。

本日の案件は環境影響評価法の対象の準備書の審査1件でございます。まずは諮問を受けた後に審査に入らせていただきます。それでは事務局の方でお願いいたします。

【事務局 諮問書を読上げ】

(楠田会長)

それでは、諮問をいただきましたので、早速議題に入らせていただきます。

議題はご紹介にありましたように、「(仮称)新小倉発電所6号機建設計画に係る環境影響評価準備書」の審査についてでございます。

それでは、まずは事業者から、準備書の手続き及び概要について説明をちょうだいいたします。よろしくお願い致します。

【事業者 説明】

(楠田会長)

ご説明ありがとうございました。それでは審議に入らせていただきます。

まずは、事前にちょうだいしています意見につきまして、ご回答いただきたいと思います。それでは、副島委員お願いいたします。

(副島委員)

意見票に書きましたとおり、希少種としてマツバラン、ニラバラン、ヒメコウガイゼキショウが挙がっていますが、マツバランは改変区域にしか見つかっていないということで、これは

影響が小さいとは決して言えないのではないかとということで、「影響はあるが、移植などによって影響の軽減を図る」というような表現にさせていただいたほうがいいのではないかとという意見が一つです。

あとニラバランとヒメコウガイゼキショウに関しましては、改変区域以外の個体数が多いために影響はほとんどなさそうなのですが、かなり人為的な影響が強い場所に生育しており、工事中の影響は非常に大きいのではないかと懸念されますので、その辺りについて特別な配慮をしていただけないかというのを意見として挙げさせていただきました。以上です。

(楠田会長)

はい、どうもありがとうございます。それでは事業者の方から回答をちょうだいいたします。

(事業者)

貴重なご意見いただきましてありがとうございます。まずマツバランに関してですが、ご指摘いただいたとおりの認識です。生育を確認したのは改変区域のみですので、そのままでは改変により消失する可能性が限りなく高いと思っております。そのため、工事開始前に生育の有無を確認して、専門家の助言を受けて適切に移植を実施するよう努めるようにしております。ただ、準備書全般に言えることなのですが、影響があると判断される場合は、影響の低減を図るための環境保全措置の実施を踏まえた上で、言い換えると環境保全措置と工事をセットと考えて、そこまで含めたところで、影響の程度を予測しております。例えば、二酸化窒素は何もしなかったら大量に出るのですが、排煙脱硝装置をつけることで影響が小さいという予測をしています。なので、マツバランについても影響の低減を図るために助言を受けて、保全に努めるとしているのが最終的に影響は小さいと予測したと、四角四面の回答になってしまいますが、そう考えております。

あと、移植の適地について、事前にご意見いただいていましたが、発電所の敷地の北東側にかなり広い緑地帯があるので、専門家の先生の話をお伺いすると、幹などに縦溝が見られる樹木や他の植物に覆われにくい場所がいいと聞いておりますので、そういった所を探して移植したいと考えております。

あとニラバランとヒメコウガイゼキショウについてはご指摘いただいたとおりと思いますので、保護と保全対策を十分に考慮して実施していきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

(楠田会長)

はい。それでは副島委員よろしいでしょうか。他に追加のご質問がございますか。

(副島委員)

はい。大丈夫です。

(楠田会長)

はい。ありがとうございます。それでは、今日、出席されておられます委員の皆様からのご質問をちょうだいいたします。それでは、藍川委員お願いいたします。

(藍川委員)

大気環境の観点から三つほど確認と質問させてください。お示しいただいたスライドの26(準備書 p.450)の大気質の保全措置を見せていただけますでしょうか。物を運ぶときの工事車両からの影響というのを、交通量の分散化の所にまとめて書いていただいているということでもよろしいですか。言い換えると、例えば残土を含めた廃棄物が出た時にそれを輸送する場合のこともここに書いてあるということでもよろしいですか。

(事業者)

はい。そういったものも含めて全ての車両を考慮してここに書いているとさせていただいて結構です。

(藍川委員)

わかりました。例えば残土がどれぐらい出るのかわかりませんが、特に残土については、今日のように暑い日であると運んでいる最中に乾燥して、載せた荷台から乾燥した残土が飛ぶ場合もあるのではないかと考えています。スライドの最後で「タイヤ洗浄を行う」というのを書いていただいているのはとてもよいと思うのですが、タイヤ洗浄に加えて、夏とかの時期に必要なに応じてシートで覆うなどの対策も考えていただければいいかなと思いました。それが1点目です。まず、これについて回答をいただいでよろしいでしょうか。

(事業者)

承知しました。その点は工事する上で常に考えていて、それはケアするべきかと思っていますし、そういったことをやりますというのを評価書に反映したいと思っています。

(藍川委員)

はい。よろしく申し上げます。あと、2点目について、スライド29(準備書 p.461,473)を見せていただけますか。ここにある予測地点というのはどこになるのでしょうか。

(事業者)

発電所から西側の湾を挟んだ対岸ぐらいの所になります。

(藍川委員)

ここは人が住んでいる所ということですか。

(事業者)

ここは工業地域になるのですが、全般的に周囲の評価をして一番大きくなる所がここになります。

(藍川委員)

わかりました。地点については、他のスライドには地点を書いていただいていたと思うので、もしその地点と違うようならそこを明記していただいた方がいいかなと思ったのが一つ、それはご検討ください。

もう一つは、二酸化窒素の将来環境濃度が 0.0413ppm ということなのですが、色々な対策をとっていただいた上でこの値ということで、ppb だとバックグラウンド濃度 25ppb が 41.3ppb になるということだと思います。環境基準は「0.04ppm から 0.06ppm のゾーン内またはそれ以下」という表現になっていて、将来環境濃度が 0.06ppm、60ppb 以下であることは間違いないと思うのですが、基本的には 0.04ppm 未満のものが、0.06ppm 以下とはいえ、将来 0.04ppm を超えるので、考えていただいている対策をより徹底していただいて、可能な限り低減に努めていただければと思います。これが 2 点目です。

(事業者)

はい。ありがとうございます。先ほどお話しいただいた地点については、説明スライドに明記しておらず申し訳ありませんでした。準備書(p.472)には記載しております。

二酸化窒素については、影響は小さくはないというところですが、記載している数字は最大地点の最大値ということで、他の地点を見ると、影響はこれより小さい所ばかりで、ただ、その最大地点、最大濃度というところも抑えるようにピークを平準化するなどを常に考えながら工事していきたいと思っております。

(藍川委員)

はい。ありがとうございます。あと最後に 1 点、準備書の要約書の p.111 をご覧いただけますか。それに関連して、99 ページに予測結果の概要というのを載せていただいていると思います。これについて確認なのですが、バックグラウンド濃度 B というのがありますが、このバックグラウンド濃度というのは、現在の 3 号機、5 号機が動いている状態でのバックグラウンド濃度になりますか。

(事業者)

はい。自然体を測っておりますので、3 号機、5 号機がその瞬間回っていたかどうかは別として、稼働状態にあるときの濃度になります。

(藍川委員)

そうですね。その上に寄与濃度が乗って、A+Bが将来予測濃度になるのでしょうか。

(事業者)

そうなります。

(藍川委員)

そうすると、将来予測濃度というのは3号機も5号機も6号機も動いている状態を想定した値になりますか。

(事業者)

おっしゃるとおりです。3、5号機の影響を差し引いて6号機を足すというのが、本当は正確なのですが、影響として全部足し合わせればすごく保守的な値となるので、それで基準値を満たすならば十分と考えています。

(藍川委員)

そうですね。3、5、6号機が全部動いているありえない状態で、実際の最大値はもう少し低くなるという、環境という意味ではかなり安全サイドを見た予測濃度になっているのかと思って、確認をさせていただきました。

(事業者)

ご認識のとおりです。どれぐらい安全サイドかというのは別として、実態はこれより小さい値が最大値となるというのはおっしゃるとおりです。

(藍川委員)

わかりました。以上3点でした。ありがとうございました。

(楠田会長)

はい。藍川委員ありがとうございました。それでは続きまして、田中委員お願いいたします。

(田中委員)

4点質問と1点コメントです。1点目は準備書 p.922 の産業廃棄物の種類及び量と有効利用量のところになります。ここで工事に伴う産業廃棄物を約67%有効利用すると書かれていますが、建設汚泥の有効利用量がかなり全体の割合を占めていると思います。建設汚泥に関して、盛土などに有効利用する場合、おそらく直接は利用できないものも結構あるので

はないかと思うのですが、どのように処理をして適切な材料として使えるようにするのか、その辺りの技術を確認されているのかという質問です。

(事業者)

はい。質問ありがとうございます。水を含んだ土壌などはセメントを入れて強度を上げたりして、埋め戻し材として使用したりすることを考えております。

(田中委員)

はい。わかりました。その辺りの実績というのはお持ちだということによろしいですか。

(事業者)

はい。

(田中委員)

では2点目の質問ですが、準備書 p.925 に産業廃棄物の種類と量の中にガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くずがあり、現状の3号機、5号機では、発生量が0なのに、6号機では発生するというのですが、6号機ではどこが違ってこれらが出てくるのでしょうか。

(事業者)

ガスタービン吸気フィルターの濾材というのがあるのですが、こちらは既設の設備にはないもので、コンバインドサイクル設備特有のガスタービンについているものになります。

(田中委員)

それを処分せざるをえないということですね。

(事業者)

はい。

(田中委員)

はい。わかりました。3点目の質問は準備書 p.926 の残土のところになりますが、ここで利用土量約12万 m^3 となっており、発生土量約22万 m^3 の半分ぐらいということになりますが、これは盛土や埋め戻しなどに必要な量の何割ぐらいが再利用になっているのかという質問です。

(事業者)

確認させていただきたいのですが、利用土量と書いている12万 m^3 というのが、もともと

その発電所の工事に必要な埋め戻しや盛土の量に対してどれくらい充てられるものなのかということですか。

(田中委員)

はい。

(事業者)

もともと工事が出てきたものを同じ敷地内で横持ちして嵩上げするというので、それが無いならないで構わないため、100%と考えていて結構です。

(田中委員)

残土量が約10万m³とあったので、発生土量約22万m³に対して利用するのが半分とまだ使えるところがあるのではないかと思ったのですが、必要な土量のほぼ100%で発生土を再利用するということがわかりました。

あと残土に関してコメントなのですが、先ほど国交省の要綱を追加したということなのですが、熱海の事件以来、残土の処理、処分というのが厳しくなっています。もちろん適正に処分されているかを追跡調査すると書かれているのですが、その前にやはり業者の選定の中で、優良業者みたいなもの、産業廃棄物であれば優良認定をもらったところがたくさんありますので、そういったところも入れていていただきたいと思います。まずは業者の選定が大事かと思いますので、できるだけそういう方向でお願いしたいというのがコメントです。

(事業者)

承知しました。

(田中委員)

最後に、温室効果ガスに関することですが、今回、植栽を伐採されるということで、植物も二酸化炭素の吸収源ですので、伐採して復元するものに関して、どの程度二酸化炭素の吸収量がプラスあるいはマイナスになるかという計算はされているのでしょうか。

(事業者)

正直申し上げるとそこまで厳密にやっておりませんが、基本的に緑地の面積的には一時的に減るのですが最終的には元に戻すということで、プラスマイナスゼロと考えているところです。

(田中委員)

樹木の年齢によっては吸収量も違うので、その辺りもできれば計算して入れてほしいなと思います。以上です。

(事業者)

はい、ありがとうございます。

(楠田会長)

田中委員ありがとうございます。それでは次に内藤委員お願いいたします。

(内藤委員)

1点だけ質問させてください。水質について、ご説明の中で全窒素が2点、環境基準を超えている所があったということで、その中で、「市長意見によりその地点を示しました」というご説明だったのですが、環境保全としての対応予定について、準備書 p.655 以降を拝見させていただいてもよくわからなかったので教えてください。

(事業者)

環境基準について、スライド 45(準備書 p.643)に記載しております2点超えているという部分は、現況において超えているということで、我々としてできることは、できるだけきれいなものを排出するということです。それでスライド 48(準備書 p.655～657)で、元々この設備は管理基準を作る必要がないものですが、そこを自主的に新しい管理基準を設ける、全窒素なら最大 15mg/L 以下という今までなかった管理基準を新しく加えることで、排出するものの窒素をできるだけ少ないものにするというのが精一杯と考えております。

(内藤委員)

わかりました。現況はそういった地点もあるということ踏まえて、今後事業を行うにあたって、適宜よく考えながら実施していくということよろしいですか。

(事業者)

はい。ご理解のとおりです。

(内藤委員)

わかりました。ありがとうございます。以上です。

(楠田会長)

内藤委員ありがとうございます。それでは、次は川崎委員お願いいたします。

(川崎委員)

スライド 57(準備書 p.671~735)に陸域の動物の調査の表が載っております。私が野鳥の会の北九州支部長をさせていただいている関係で、鳥の方に限定してお話させていただきますが、資料の中では鳥類 15 種を確認されたということです。この中でもカラシラサギやオムシクイは渡りの時期に出てくる鳥だと思っておりますが、北九州市でも毎年見られるというような鳥ではないので、今回の調査の中では観察されたということは、西港地区をそういった渡り鳥が利用しているということがわかりました。

それと、ハヤブサの繁殖行動等が見られたということで、実際に繁殖している場所については特定されていないということなのですが、近くの工場や窪んだ所を利用して繁殖活動が行われているということで、鳥についても非常に密度の高い場所なのかなということで、これまでほとんど西港地区では調査されていないので、今回は非常に重要な調査結果が得られた点についてお礼を言いたいと思います。鳥たちにとって工事が始まった場合、渡り鳥は一時的な利用なのでそんなに影響はないと思うのですが、ハヤブサ等については説明の中でもあったように工事期間中には寄らないように対応するというのですが、この西港地区一帯をえさ場として活動しているということは重要視していただきたいと思います。

それから、今回計画されている二つの建屋の屋上についてですが、完成予想図では、建物の屋上が平らになっているのですが、将来的に太陽光発電を作るとか、何か計画があるのかお聞きしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(事業者)

現時点で建屋の屋上は活用の予定はございません。また、これから考えるのかも現時点では未定でございます。以上です。

(川崎委員)

はい。わかりました。屋上の活用について私からの要望となるのですが、カモメの仲間絶滅危惧種のコアジサシという鳥がおり、海岸の砂礫地で子育てするというので、繁殖する場所の確保が緊急な課題になっています。コアジサシの繁殖場所として、建屋の屋上に砂礫等を載せて、そこへ誘引して子育てさせるということができればいいと考えております。こういった会社での取り組みというのはなかなか難しいとは思いますが、実際、東京の方では浄水場の屋根に砂礫を撒いてコアジサシを誘引している所もありますので、企業イメージを上げるという意味では、工業都市の中でそういったものができればいいなと思います。実際に近くで繁殖している事例は今のところないのですが、北九州空港の駐車場の横に小さな砂礫地があり、今年、そこに 100 羽から 200 羽程度のコアジサシが来て繁殖活動をしています。ただ、ここは空港敷地内で、バードストライクの可能性も高まりますので、そこに居られるかというのは非常に慎重なところになるので、もっと安定した繁殖地として、発電所の屋上で子育てして、近くの海でえさ取りするということができればいいなというこ

とでご提案させていただきます。これは今回の審査会の中での環境影響に対する意見ではないですが、せつかくある屋上を有効利用することも考えていただければというのが私からのお願いです。以上です。

(楠田会長)

はい。川崎委員どうもありがとうございます。

下側で騒音が出ている状況で鳥がゆっくり安眠できるかどうかは、また色々問題もありそのような感じがいたしました。

(川崎委員)

実際、北九州空港ではジェット機が毎日飛んでおりますが全然影響はございません。

しかも、駐車場なので周りを車が走り回っていますが、全然問題はありません。安定した砂礫地があるかというのが一番の大きな問題かと思っています。

(楠田会長)

はい。それでは次のご発言をちょうだいいたします。村瀬委員お願いいたします。

(村瀬委員)

それでは私の方からは、スライド 69(準備書 p.810~818)の排水に対する海域の動物植物の影響についてご質問させていただきます。予測結果では、海表面の温排水 1°Cの拡散面積は現状の約 44%に減少するとして、温排水による海域の動物と植物への影響は少ないものと予測しているとなっておりますが、実際に放水口に隣接する護岸の付着生物や底生生物、あるいはスライド 67(準備書 p.801)のところで補完調査を行っていて、放水口の近傍に重要な魚類や無脊椎動物が生息していたという結果をお示ししていただいています。放水口の近くというのは、温排水 1°C、あるいは 2°Cの拡散範囲内に位置するものだと考えます。これらことから、工事中や運転開始後において配慮すべき事項として、例えばスライド 90(準備書 p.968,969)に環境監視計画に温排水の実施内容が書いてありますが、そこに海域の動植物のモニタリングなどを加えるべきと考えます。そのあたりいかがお考えでしょうか。

(事業者)

はい。ご意見いただきましてありがとうございます。おっしゃられるとおり、スライド 67で補完調査を行った所にはその重要な種というのは存在しているのですが、我々としては温排水の影響を評価する際に、温排水がないと生きていけない種はあるのか、いわゆる死滅回遊魚みたいなものがあるのかという視点で、そういったものはないと考えております。温排水の影響が 1°Cというのがどれぐらい影響あるかと考えたときに、温排水が出ている状況というのが、放水口近辺では海流が頻繁に変わる状況で、放水口から出たものが東に行く時

もあれば西に行く時もあり、常に1°Cになっているような所がない状況で、ユニットとしても止まったり回ったりということで常時1°C上がるようなものが出ているわけではありません。加えて、その熱量も拡散範囲も現状の44%に減るということで、発電所の運転によって、その動植物に影響を与えることはないのではないかと考えております。そういったこともあり、環境監視計画について、あまりこのようなことを言いにくいですけど、お金がかかるようなものでもありますし、なかなかそこをやるというのは言いにくいというのが正直なところです。

(村瀬委員)

放水口の周辺では今のお話で結構ですが、私が一番気にしているのは、放水口の直近の所です。直近の所で付着生物は絶対逃げられるようなものではないので、例えば、ワカメは冬と春に繁茂するようですが、こういった大型の海藻が生育することによって、海中に溶け込んでいるCO₂を吸収し、間接的に温暖化対策に貢献しているということを考えれば、少なくとも放水口近くの護岸辺りの生物相というのは、継続してモニタリング調査すべきと考えております。意見として聞いていただければと思います。

(事業者)

温排水は44%に減ると言っても直近の出口の所では常にある状態なので、その状態としては温度、流速は同じで、流量が違うので広がる範囲が変わるのですが、すぐ出た所の状態というのは現状と工事後で全く変わらないと思っております。そういった考えではあるのですが、ご意見として承ります。ありがとうございます。

(村瀬委員)

はい。よろしく申し上げます。

(楠田会長)

村瀬委員、どうもありがとうございました。その他にご発言ございましたら、挙手ボタンを押していただけるとありがたいです。はい。それでは伊藤委員お願いいたします。

(伊藤委員)

質問というか現状を教えて欲しいのですが、スライド20(準備書 p.42)のところで、脱炭素やカーボンニュートラルということで、カーボンフリー燃料やCCS等を使って脱炭素化を進めて参りますというようなことが書いてあります。カーボンフリー燃料を混ぜるといってもおそらく質の問題やコストの問題があって、試験的に数%ぐらいはあるのかもしれないのですが、量の確保も難しいのではないかという気がしている点と、CCSも今実験はやっているのですが、私のイメージしている地中貯留だとサイトの選定や環境影響評価をど

うやるかなどの色々な壁が大きすぎて実現性があるのかどうかという現状をよく把握していないので、そこについて教えていただきたい。現状に合わせて、実現可能な範囲で検討するというぐらいでいいのではないかと考えていますが、ご意見があればお願いします。

(事業者)

ご質問ご意見ありがとうございます。まずカーボンフリー燃料について、量の確保が難しいのではといったコメントがございまして、まさにおっしゃるとおりでして、発電用燃料として使う場合には、大量に燃料が必要になります。また、それを経済性がある形で安定的に長期間調達するのは非常に難しいと思っております。今後のこういったカーボンフリー燃料の導入の大きな課題になっている認識がございまして、また、CCSにつきましても、地中貯留をするためのサイトの選定等の障壁が大きいのではないかとご意見がございました。こちら、私ども国の補助金も得ながら検討しておりまして、非常に難しい問題と考えております。まだこれは事業化を決定したものではありませんので、今はカーボンフリー燃料やCCSの検討・研究の段階と思っております。しかし、国もカーボンニュートラルを目指していくということを宣言しておりますし、私ども会社としても2050年にカーボンニュートラルを目指すことを宣言しておりますので、ご指摘のあったとおり、色々な取り巻く環境を考慮しながら、大きな流れとしてはカーボンニュートラルを目指していくという方向性になるのかなと思っております。回答になっているのかわかりませんが、以上となります。

(伊藤委員)

はい。ありがとうございます。

(楠田会長)

それでは、ご発言の挙手ボタンが新たに挙がっておりませんので、これで本日の「(仮称)新小倉発電所6号機建設計画に係る環境影響評価準備書」の審査を終えさせていただいてよろしゅうございますか。それではご発言ございませんので、これをもちまして、審査を終えさせていただきます。どうもありがとうございます。それでは、今後の手続きにつきまして、事務局から説明をちょうだいいたします。

(事務局)

はい。今後の手続きとしましては、本審査会からの答申を受けまして、北九州市長意見を作成し、9月26日までに経済産業大臣へ提出いたします。事業者は今後、市長意見や経済産業大臣勧告等を踏まえて、準備書の記載事項について検討、修正をした評価書を作成し、経済産業大臣へ届け出るようになります。以上です。

(楠田会長)

はい。どうもありがとうございます。それでは、今お話にありました答申につきましては、委員の皆様方からちょうだいしましたご意見を踏まえて、私と事務局とで協議しながら取りまとめて市長宛に提出したいと考えております。ご異議ございませんでしょうか。ご意見がありましたら、挙手ボタンをオンにさせていただくとありがたいです。挙手ボタンが押されておりませんので、ご異議がないとさせていただきます。それでは、これにて今日の審査会の議事を終了させていただきます。事務局に進行をお返しいたします。

(事務局)

はい。楠田会長、ありがとうございます。答申につきましては、後日事務局から各委員へ共有いたします。それでは閉会にあたりまして、環境監視課長の松岡から一言ご挨拶申し上げます。

(事務局)

本日は長時間にわたりご審議いただきありがとうございます。今後とも、委員の皆様におかれましては、引き続きご専門の立場からご意見を賜りたくお願い申し上げます。今後の審査会の予定としましては、次回は10月頃にオンラインの開催を予定してございます。また、12月もしくは1月ごろに現地視察を伴う審査会の開催も見込んでございます。現地視察がある場合は、対面とオンライン併用のハイブリッド形式で行いたいと考えております。案件ごとに改めて日程調整等させていただきますのでどうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

(事務局)

以上をもちまして第61回北九州市環境影響評価審査会を閉会いたします。本日はお忙しいところありがとうございます。